

4ト平ボディ車導入

中山商運 若年人材確保むけ

【三重】中山商運(中山)で、若年人材確保での活用も視野に入れる。7月30日、業務拡大に伴い4トトラックを初めて導入した。中型以下の運転免許で乗務可能な車両の第1号

で、若年人材確保での活用も視野に入れる。同社は、大型平ボディ車とトレーラが主力で、建設関連資材に特化。しかし、4月にスタートした新規案件は細かい建築資材をホームセンターや個人経営の金物店に配送する仕事で、4月以降は「我が社で一番小さい車両」(中山社長)のクレーン付き7ト車に対応



しながら、専用の4トトラック(三菱ふそうトラック)

(面担 波多江大輔)
 ・バス社製の平ボディ車を発注し、30日に納車された。

中山氏は「大型免許が不要な小さいトラックは、我が社では初めて。北は桑名市から南は熊野市まで県内全域に資材を運ぶが、狭い道に面した金物店も多く、小回りが利く4ト車は使いやすい」と強調する。

その上で、「人材確保では苦戦している。準中型免許でも乗れるトラックがあれば、若い人を呼び込みやすくなる。また、大型車の乗務に不安を感じ始めた高齢ドライバーに乗ってもらうこともできる」と説明。

仕事は順調に推移しているものの、ドライバーが足りないため、次の一手が打ちにくい状況だという。中山氏は「本当はトレーラも増車したいが、人手不足で見送っている。4ト車導入で仕事の幅を広げ、人材確保のチャンスも増やせたら」と力を込める。

(星野誠)

4ト車をトラックに「大型車の乗務に不安が出てきた高齢ドライバーに乗ってもらえる」と中山社長